



発行責任者 亀岡市立病院広報委員会

〒621-8585

京都府亀岡市篠町篠野田1-1

TEL 0771-25-7313

FAX 0771-25-7312

http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/

## 病院理念

- 急性期医療を中心とした適切かつ良質な医療を提供します。
- 患者さまの権利を尊重し、理解と納得に基づいた患者さま中心の医療を行います。
- 地域医療機関と連携し、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み地域医療の向上に貢献します。
- 公共性と経済性を考慮し、市民の理解と信頼を得られる透明性のある病院運営を行います。

## CONTENTS

ごあいさつ	1
外科診療内容の紹介	2・3
第2病棟の紹介	4
放射線技術科より	4
市立病院に質問 介護保険について	5
アンケート結果	5
トピックス 新任職員紹介	6
日本内視鏡外科学会技術認定を取得	6
病院職員紹介	6
地域連携医のご紹介	
平田クリニック・瀬尾医院	7
編集後記	8
アクセスマップ	8



## ごあいさつ

新緑の候、如何お過ごしでしょうか。昨年の今頃は新型インフルエンザの話題で持ちきりでしたが、当院職員も二転三転する情報と未体験の事態への対応に、神経を尖らせた日々が続きました。2003年にも亀岡は台湾からの渡航者が持ち込んだSARSウイルスに曝され、「見えない脅威」の恐ろしさを体験したはずですが、残念ながらあの時の教訓はあまり生かされていないように思いました。

さて、早いもので当院が開院して6年が過ぎようとしています。先進的で専門性の高い病院であると共に、公立病院という立場としては民間病院の手の回らない領域のカバーもその使命の一つと考え、スタッフ一同努力して参りました。しかし100床の小規模病院では医療スタッフの数も限られ、診療範囲も市民の皆様の希望に応えるにはまだまだ至っていません。今後、病院規模の拡大が必須と思われませんが、そのためにもまず経営面での改善を成し遂げる必要があります。現在「改革プラン」を元に鋭意努力しております。

そんな中、今春、院内に新しく「画像配信システム」を導入致しました。従来はレントゲン撮影後、フィルムを現像して読影作業を行っていましたが、全てパソコンのモニター上で瞬時に見ることができ、診断までの時間短縮や、より分かりやすい説明への利用が可能となりました。遅れていたIT化の第一歩を踏み出したわけですが、今後電子カルテシステムへと発展させることで、よりスピーディかつ安全性や質の高い診療が行えるようにし、市民の皆様の健康維持に貢献して参りたいと考えています。



亀岡市立病院 副院長 天池 寿

## 外科診療内容の紹介

当院外科の診療内容について紹介させていただきます。当院外科には天池副院長を筆頭に田中、阿辻と3名のベテラン常勤医師が在籍しており、全身麻酔手術は開院初年度から6年間で608例行っております。この数値自体は満足できるものではありませんが、一時期外科医の退職で手術実施が困難な時期があった事が要因と思われます。幸いその後人員の確保と近隣の開業医の先生方からの紹介の増加により、症例数は年々増加してきております。まずは主軸となる消化器外科ですが、



←手術風景  
↓ジオン注射



開院直後より鏡視下手術を積極的に導入しており、鏡視下手術症例数は268例を数えます。その内訳ですが鏡視下の胃悪性腫瘍手術20例（GIST 1例含む）、結腸癌手術39例、直腸癌手術13例、胆石症手術（総胆管結石症を含む）97例などとなっております。進行癌症例が多い割には鏡視下手術が多く、可能な限り低侵襲な、体にやさしい手術をめざしております。最近では鏡視下胃全摘術や結腸癌の完全鏡視下手術（体内吻合）や胆石症の単孔式手術（single port surgery）なども手がけております。また天池副院長が今年度内視鏡外科学会技術認定を取得し、さらなる発展が期待されます。

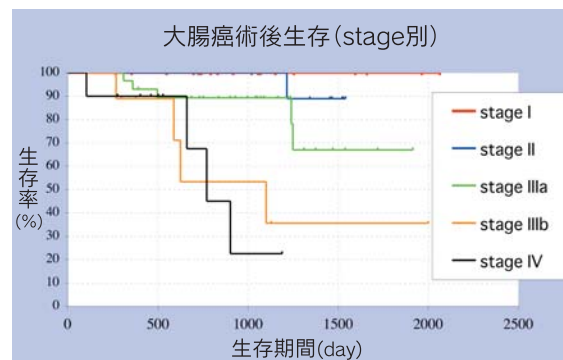
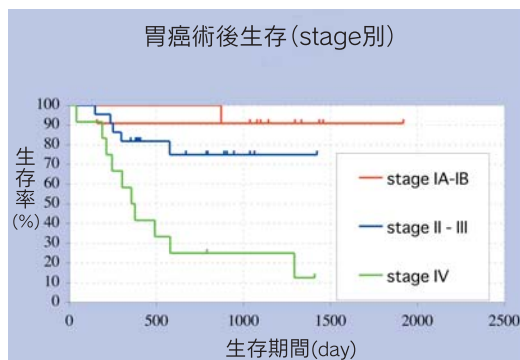
また開腹手術では肝臓の高難易度手術にも取りくんでおり、昨年1年間に門脈浸潤膵癌に対する血行再建手術も3例行っております。

読売新聞社の人気シリーズ企画に「病院の実力」と銘打った疾患別症例数病院ランキングがございますが、昨年に肝臓手術数ランキングが公表された折、京都府下のランクに載せていただきました。（症例数はH20年度分）またかなり高齢やリスクの高い症例をこなしておりますが開院以来術死例（術後1ヶ月以内に死亡する症例）はありませんでした。開院後5年を経過したのを受けて胃癌及び大腸癌に関して当院での手術成績を検討しました。（別表参照）その結果は他の大規模病院などに比して見劣りしない成績であると自負しております。また、前述の読売新聞のシリーズでは今年になって京都府内の肛門（痔）疾患に対する手術例+硬化療法の症例数ランキングにも載せていただきました。硬化療法は1泊入院を基本とさせていただきますが、患者様の状態によっては日帰りでも受けいただけます。また当院では豊富な経験数はもちろんのこと、検査設備及び入院施設が整っているため、後日出血などの稀な合併症が起こっても夜間でも対応できるところが良い点ではないかと思っております。

次に乳腺外科について紹介させていただきます。当院は亀岡市の40歳以上の乳癌検診施設となっており、昨年度は1400余名の検診を行いました。今年も6月から検診が始まります。その体制は、検診マンモグラフィ精度管理中央委員会の撮影認定技師3名、読影認定医師3名（外科2名、放射線科1名）となっております。ただ撮影及び読影の責任者として前述の認定資格Aの技師1名と

は豊富な経験数はもちろんのこと、検査設備及び入院施設が整っているため、後日出血などの稀な合併症が起こっても夜間でも対応できるところが良い点ではないかと思っております。

次に乳腺外科について紹介させていただきます。当院は亀岡市の40歳以上の乳癌検診施設となっており、昨年度は1400余名の検診を行いました。今年も6月から検診が始まります。その体制は、検診マンモグラフィ精度管理中央委員会の撮影認定技師3名、読影認定医師3名（外科2名、放射線科1名）となっております。ただ撮影及び読影の責任者として前述の認定資格Aの技師1名と





←赤外線センチネル操作  
↓センチネルリンパ節



医師1名がそれぞれ全例に目を通すため、これ以上の検診数は難しいのが現状です。また検診の質を下げないように講習会にも毎年参加し、研修に努めております。治療については他院でのセンチネルリンパ節生検の研修後、2006年7月から色素と赤外線カメラを使用したセンチネルリンパ節生検及びバックアップ郭清（妥当性試験）を開始し、2009年4月に終了、同定率95%正診率94%でした。この結果を基にセンチネル陰性例では2009年5月より郭清省略を開始しております。昨年度の手術数は15例で、その内80%が乳房温存できました。

次に鼠径ヘルニア手術を紹介させていただきます。昨年は24例の手術を行っており、小児では夏休みなどに1泊入院で行っております。大人ではクーゲル法を基本にしており、術後の違和感が軽いと好評です。また人工材料を使用しない術式にも対応しており、嵌頓による壊死腸管で汚染された症例も問題なく治療できております。

その他の手術を紹介致します。再発気胸に対する鏡視下ブラ切除術も行っておりますが、吸収性プレジレットを使用するようになり術後の気漏の合併も無くなり、全例数日以内に退院していただいております。また下肢静脈瘤に対しては病態と重症度に応じてストリッピングと硬化療法を組み合わせ治療しております。ストリッピングは膝上を中心に施行しており、内翻式かつTLA麻酔を併用しているため術後の痛みが軽く、術後2、3日で退院可能となっております。また硬化療法は日帰りで施行でき、患者様に好評を頂いております。

手術以外の外科の仕事で最も重要なのが抗癌剤治療です。当院では外科医師は全員「がん治療認定医」の資格を有しており、胃癌、大腸癌、膵癌、

乳癌など多くの癌腫に対する化学療法を実施しております。最近の抗癌剤治療は複雑化しており、かつ日進月歩で変化していくため、最新の情報を入手する不断の努力と人為的ミスをなくすシステムが要求されます。当院では天池副院長を中心と

してレジメン管理をしており、かつ薬剤師、看護師の勉強会を通じてチーム医療を構築しており、将来的には外来化学療法センターの開設を目指しております。

一部の大規模病院では包括医療制度のため、入院では抗癌剤治療が難しく、通院する体力が無ければ早期に化学療法を打ち切れ、緩和ケアは別の病院でするように言われるケースがあるようです。逆にホスピスなどでは抗癌剤治療などは行えず、積極的治療を続けるかあきらめるか悩む方も多くおられます。当院では患者さんの状態や希望に合わせて入院でも外来でも柔軟に化学療法を施行しており、また麻酔科橋本医師を中心とする緩和ケアも抗癌剤治療と並行して行っているため、患者さんの体力や希望に応じた抗癌剤治療ができ、かつシームレスに緩和ケアに移行していただけます。手術から再発治療、終末期医療まで全て当院で行い、最後まで責任を持ってケアすることをモットーにしております。

最後に阿辻医師をリーダーにする院内NST(栄養サポートチーム)活動を紹介致します。古くから医食同源という言葉があるように栄養がよくなければ病気は治りません。特に最近は高齢者が栄養不良を背景に肺炎や褥瘡を患って入院されるケースが増えてきました。栄養士、看護師、薬剤師などとチームを組んでそれぞれの患者に合わせた栄養管理を行い、かつ褥瘡の治療などを行っております。最近では体力が比較的ある患者さんに栄養状態の改善を図った上で積極的に外科手術による褥瘡治療も行っております。

以上、少数精鋭で広い範囲の治療をカバーする亀岡市立病院外科をよろしくお願い致します。

(外科部長 田中 宏樹)

## 第2病棟の紹介

第2病棟は、整形外科・循環器科・小児科の混合病棟です。

手術や検査目的で入院される患者様や、急な病状の変化や交通外傷などで緊急入院をされる患者様の多い病棟です。患者様の年齢層は幅広く、下はゼロ



歳の乳児から上は100歳の方まで入院されています。看護師は、モーニングケアから病床に伺い、病床整備、

点滴・注射の準備、体の清拭、手術や検査の準備、リハビリ介助など患者様の1日の生活に関わっています。患者様のお世話をしながらお話を聴かせていただき、医師との架け橋となり、安全で安らぎのある療養環境づくりに努めています。

患者様は、思うようにリハビリが進まない時や検査結果の数値が良くない時は、とても不安になったり悩まれたりしますが、患者様の日々の努力の積み重ねにより、曲がらなかった膝が少しずつ曲がるようになり、歩行練習にまで到達されている姿は本当に嬉しく思います。患者様に寄り添い共に喜びとできる看護業務を誇りに感じています。

(副看護部長 前第2病棟師長 林 圭子)

## 放射線科に画像配信システムを導入いたしました

放射線科では、今年の4月1日より画像サーバーを使って画像配信を開始しました。

画像サーバー、画像配信・・・、なんか難しそうやなーって思われる方も多いとは思いますが、簡単に説明しますと、放射線科で撮影したレントゲン写真をパソコンの画面で表示する為の装置（コンピュータ）です。

では、画像サーバーによって何が変わるかと言いますと、今まではレントゲン写真を撮影すると、フィルムで診断を行ってききましたが、フィルムでは、濃度や明るさを変える事が出来ませんでした。しかし新しいシステムでは、見たい部位に応じて、明るさなどを調整することが出来ますので、今まで以上に診断の幅が広がります。

また、フィルムを現像する時間がない為、撮影後すぐに診察場で画像を見ることが出来ますし、以前撮影した画像も簡単に呼び出すことができます。その為、患者様の待ち時間短縮にもなります。もし他の医療機関にかかれる場合も、当院で撮影したデータと

Viewerソフト（画像を見る為のソフト）をCDに入れてお渡しできますので、紹介先のパソコンでも同じような操作で画像を見て診断していただくことが出来ます。

しかし良いことばかりではありません。画像サーバーと言っても機械である以上故障する可能性もあります。一番危惧されることはデータが消えてしまうことです。その為当院では、ハードディスクを二重化したり、毎日画像データのバックアップを取っています。また、地震で倒壊しないよう、ボルトで地面に固定して、耐震設計を施しています。

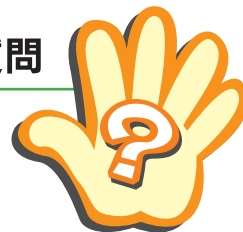
今後も、みなさまに安心して受診していただけるよう、画質向上も含め、万全の体制で取り組んで参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(放射線技術科長 八木 教之)



# 介護保険について Q&A

市立病院に質問



年金から介護保険料というものが差引かかれていますが、どのような時に使える制度なのでしょう。また、どこに相談に行ったら良いのでしょうか。（亀岡市内在住Fさん）

介護保険は市町村が運営し、高齢者の暮らしを地域で支える制度です。

40歳以上の皆さんが納める保険料と国や地方自治体の負担金などが制度を運営する財源です。

介護保険を利用するには、まず申請をして要介護認定を受けなければなりません。申請出来るのは、65歳以上の方あるいは、40歳以上の特定疾病をお持ちの方です。窓口は市町村の介護保険担当課で

す（地域包括支援センター、居宅介護支援事業者、介護保険施設でも代行申請可能）。申請に費用はかかりません。

要介護認定の結果



要支援1、2と認定された方は介護予防サービスを利用できます。

要介護1～5と認定された方は介護サービスを利用できます。

サービスの内容としては、在宅サービスと施設サービス（要介護1～5の方のみ可能）に大別できます。

在宅サービスでは、訪問・通所・福祉用具の貸与・購入・住宅改修など、必要に応じて様々なサービスを利用できます。

介護度によって利用限度額が定められており、自己負担は利用したサービス料金の1割です（食事代等、別途自費あり）。

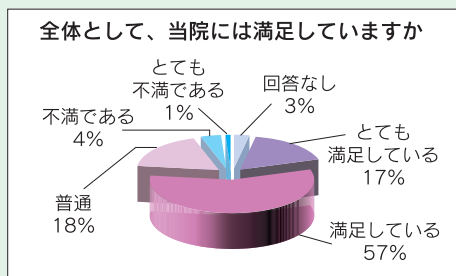
詳細は、市町村の介護保険担当窓口、地域包括支援センター等にご相談下さい。

（回答者 医療ソーシャルワーカー 小松 尚子）

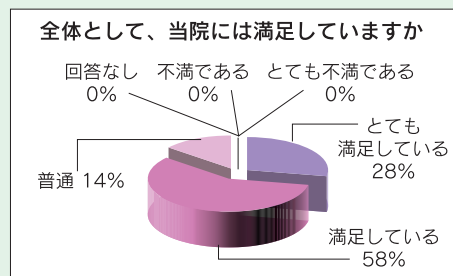
## 患者様アンケートにご協力いただき有難うございました。

平成21年10月に行いました患者様アンケート調査では、皆様に貴重なお時間をいただき誠にありがとうございました。皆様から当院への評価やご意見をいただきましたことは、病院の運営に反映させていただき、市民の皆様から「私たちのまちの、私たちの市立病院」と思っただけのような職員一人ひとりが強い意識をもって診療を行ってまいりたいと思います。紙面の都合上全て掲載できないことをお許しいただき、全体の公表は、今後、ホームページや院内掲示で行いますのでご理解ください。

外来患者様の満足度



入院患者様の満足度



### ご意見やご要望の内容（抜粋）

#### ①診療科設置の要望

- ・ 歯科、婦人科、耳鼻咽喉科、脳外科、産婦人科を設置して欲しい。
- ・ 医師を増やして欲しい。

#### ②会計の待ち時間が長い。

#### ③診察待ちの時に、診察時間を教えて欲しい。

このほか、たくさんの貴重なご意見やご要望をいただいておりますが、ご要望に対しての改善点等の回答につきましては、調査結果と合わせてホームページ、院内掲示で公表する予定をしています。

## 4月から新たな仲間を迎えました。

入職してはや1ヶ月、亀岡の山々の木々がみずみずしく緑豊かな季節になりました。あっという間に時は過ぎてまいります。私たち12名の看護部職員は、新人ではありますが社会人としていろいろな経験を積んできております。その経験を亀岡市立病院の職員としてそれぞれが、どれだけ「持てる力を発揮していけるか」楽しみにもしております。

市民の皆様から「私たちの町の私たちの市立病院」

として、役割を果たしていくことを目標とする亀岡市立病院職員の一員になったことを自覚し、看護部職員として他部署の職員と協働し、安全で安らぎのある療養環境の提供と、質の高い看護実践をめざしていきたいと考えております。そのためにも看護職という専門職者として、知識・技術を高めるための自己研鑽を怠らないよう努めて参りたいと存じます。

現在は先輩に追いつき、早く1人前の業務が遂行できるよう努めております。どうか皆様今後ともよろしく願い申し上げます。以上12名を代表してのご挨拶とさせていただきます。

(看護部長 川口 小夜子)



↑左から  
川村看護助手・三木看護師

←前列左から 小寺看護師・巻田看護師・川口看護部長  
人見看護師・山本看護師  
後列左から 川勝看護助手・木下看護師・後藤看護師  
大道看護師・長尾看護師

## 天池副院長が 日本内視鏡外科学会技術認定を取得しました！

今年、天池副院長が内視鏡外科学会の技術認定を取得いたしました。これは内視鏡手術の指導をする技術がある事を学会が認定するもので、難易度の高い資格として知られています。



## 病院職員紹介



外科医長  
阿辻 清人

### 海釣りに行こう

最近無料の釣りゲームがはやっているようですが、釣りの面白さは携帯できません。私は滋賀県の琵琶湖の畔に生まれ育ったため幼いころから川や湖で鯉や鮒釣りを楽しんできました。最近は何年に数回しか釣りに行くことはないですが、海

釣りに行くことが多いです。海釣りと言っても磯釣り、波止場での釣り、沖釣り、いろいろあります。どれもそれぞれ面白い釣りですが、お勧めは大物や数釣りが楽しめる沖釣りです。大海原で釣り糸を垂れている間は、世間の喧騒を忘れられます。釣れなくてもビールを飲んでのんびりできるのもいいです。これから夏にかけてスルメイカ釣りが面白くなります。釣ってよし食べておいしいイカは初心者にお勧めです。今年の夏は海釣りに出かけてみませんか？

当院では、地域の医療機関と連携して、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み、地域医療の向上に貢献することを病院の基本理念として、患者さま中心の医療を展開しています。そこで、本誌において、地域の連携医療機関を順次紹介しています。

## 平田クリニック

院長：平田 正弘

住所：亀岡市追分町馬場通21-17

Tel：25-3010

標榜科目：内科、循環器科、呼吸器科

診療時間：午前9:00～12:00、午後5:00～7:00

木・土曜日の午後および日曜日・祝日休診

### 院長より一言

平成16年4月に長い勤務医生活に終止符を打ち、開業しました。その2ヵ月後の6月に市立病院がスタートしたと記憶しています。ほんの少しだけ私の方が先輩という感じでも親しみがあり、以来、大変お世話になり感謝しています。

開業当初かなり暇で、誘われるままに在宅医療にはまり込みました。件数が増えた頃、平岡先生という救世主が現れて下さり、他にも植木先生、白川先生も在宅診療に加わっていただきました。徐々にこのような「輪」が拡がることを期待しています。

市立病院も医師・看護師が足りず苦境が続いていますが、レベルの高い先生方がおられ、敷地も広いのですから、是非とも桂病院や三菱京都病院に負けない位に大きく成長して頂きたいと思っています。その暁には在宅医療もよろしく願い申し上げます！



## 瀬尾医院

院長：瀬尾 博

住所：亀岡市篠町見晴1丁目8-3

Tel：22-0802

標榜科目：神経科、内科

診療時間：午前9:00～12:00、午後5:30～7:30

土曜日の診療は第2・第4・第5の午前のみ

木曜日午後の診療は1:30～4:30

水・土曜日の午後および日祝日休診

### 院長より一言

岩倉病院在職中、週1回亀岡保健所での精神保健福祉相談に来させてもらっていたことが縁で、昭和62年に現在地に開業して、22年経過することが出来ました。

開業当初は、近隣住民の精神科に対する偏見(?)が強く、3回地域住民の方々話し合いの場を持ちました。その頃亀岡市内ではまだ医療機関の数が少なかったのですが、現在では数多く増え、地域住民の方々も比較的安心して暮らせる地域になってきたのではないかと思います。

開院してしばらくして、平成8年よりグループホームを篠町に作り（現在は5人の統合失調症の患者さんが共同生活しています）、また、平成11年4月より精神科デイケアを開設しています。精神科デイケアは月曜より金曜日まで行っていますが、平均で1日27～28人の統合失調症やうつ病の患者さんが来院されています。

当院通院中の患者さんも度々亀岡市立病院に通院されておられます。循環器、消化器、整形外科等で困った時には気軽に紹介できる医療機関として非常に心強く思っています。また、救急におきましても、不安発作、過換気症候群や大量服薬による自殺未遂、リストカットなどの患者さんも丁寧に対応していただき、感謝しております。度々当院通院中の患者さんが診察に何うと思われそうですが、今後もよろしくお願い致します。

最後になりましたが、亀岡市立病院の更なる発展を祈念しまして、当院の紹介とさせていただきます。



新緑が美しい季節がやってまいりました。広報誌のタイトルでもある『桔梗』の蕾もそろそろ膨らむころではないでしょうか。（開花時期6月～9月）

今号では新入職員の紹介を掲載しております。看護部長をはじめ、看護師・看護助手12名が市立病院の一員となり開院7年目を迎えることになりました。全国的な医師不足がニュースにも取り上げられ、地方によっては診療を継続することが出来なくなった医療機関もあり、大きな社会問題になっています。医師の確保は地域医療と密接に関係していることから、市民の皆様にとっても関心のあるところではないでしょうか。当院においては、幸いにも常勤医師の大きな異動はなく、患者さまへの影響も最小限であったと思います。

さて、診療内容の紹介コーナーでは外科について掲載しています。消化器外科領域の鏡視下手術（腹腔鏡など）や乳腺外科領域、抗癌剤治療など外科医としてのこだわりを感じ、また幅広い守備範囲が窺える記事となっております。

最後に、編集委員からのお知らせです。本広報誌の表紙や挿絵に掲載させて頂く写真やイラストなどを募集させていただきます。募集に関する詳細は次号にてお知らせいたします。たくさんの投稿をお待ちしておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

広報委員会委員 原 健介（主任臨床検査技師）

## 病院敷地内全面禁煙



亀岡市立病院は、平成21年12月1日から受動喫煙を防止するため、病院敷地内の全ての場所を禁煙としています。皆さまのご理解とご協力をお願いします。



JR馬堀駅から徒歩約5分／京都縦貫道篠インターから車で約5分／駐車（輪）場有

## 亀岡市立病院

〒621-8585 京都府亀岡市篠町篠野田1-1  
 TEL 0771-25-7313 FAX 0771-25-7312  
<http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/access/index.html>